

秋の火災予防運動

10月15日から10月31日まで秋の全道火災予防運動が行われました。東川消防では、この運動期間の防火啓蒙として、22日に全分団消防車による防火パレードを実施しました。午後からは消防団員が一般家庭の防火訪問で火災予防のチラシを配り防火を呼びかけました。その後、全職員・団員が第一小学校で模擬火災訓練を実施し、防火水槽からの中継並びに建物への放水を連携して行い、機敏な動作により万一の火災に備えていました。

また、少年消防クラブでは16日から一週間、拍子木を手に商店街や住宅街を夜回りし、「火の用心」「消さないで、あなたの心の注意の火」と大きな声で防火を呼びかけ、20日には婦人防火クラブと合同でスーパーマーケット前で街頭啓蒙を行い、買物の通行人に「火の元に十分注意してください」と火災予防を訴えました。



火災のない、安全な町を目指します

第36回町民総合文化祭

「風香り・大地豊か・人輝く・文化創造」をテーマに第36回町民総合文化祭が10月28日から11月8日までの期間と11月14日に改善センター・文化ギャラリー・東川中学校体育館などを会場に開催されました。

芸術文化を楽しむ町内の子供から大人までのクラブやサークル、個人が各活動で取り組んだ成果を発表する文化祭は、10月28日から文化ギャラリーで作品展示などが行われました。

11月3日（文化の日）には改善センターを会場に例年好評の旭川福祉専門学校生による人形劇・オペレッタや町内サークルの発表会などが行われ、親子連れからお年寄りまで多くの方の来場がありました。

また、11月14日に中学校体育館で行われた児童生徒音楽の集いには、幼児センターや町内の小中学校の子どもたちによる楽器演奏や合唱が行われました。



「第16回私たちの身のまわりの環境地図展」東川高校生徒入賞

児童生徒の学習意欲の向上を図り、学校の教科を通じて培った様々な力を競い高め合う全国大会に対して、文部科学省が認定する「学びんビツク」の1つに社会の教員たちが構成する環境地図教育研究会主催の「私たちの身のまわりの環境地図展」があります。

この地図展は自分たちの身近な環境について考えたことや調査したことを一枚の地図にまとめるものです。毎年、旭川市が会場となつて全国から多数の作品が集まります。今年は、道内を始め本州各地や中国からの出展を含め、1500点余りの応募がありました。

東川高等学校では、1年生全員が夏休みの社会科のフィールド学習の一環として作品の制作に取り組み出展したところ、2名の作品が入賞（優秀賞1名、努力賞1名）し、10月29日に旭川市科学館「サイバル」で表彰式が行われました。



努力賞
伊藤綾香さん

優秀賞
佐藤 光さん

まちな話題が満載! Town News まちな出来事



懇談風景（右がカルヴィーティス首相）

ラトビア共和国首相が来町される

10月24日に文化交流などを通じて親交のあるラトビア共和国のアイガルス・カルヴィーティス首相が初めて来町されました。

当日は7月に来町されたラトビア共和国駐日大使のペーテリス・バイバルス氏他4名で、ラトビア館（東川町進化台）や文化ギャラリーを見学されました。

カルヴィーティス首相は、ラトビア館から望む旭岳の眺望に感動されていました。

また、中曽根康弘元首相の長男の中曽根弘文参議院議員が、日本ラトビア友好議員連盟の会長を務めていることから文化ギャラリーで開催中の中曽根元首相の写真展を見学されました。

松岡町長と懇談されたカルヴィーティス首相は、「ラトビアの自治体と東川町が友好提携」を結ぶことを強く勧め、松岡町長も「ラトビア館を名誉領事館とすることと合わせて進めていきたい」と応えていました。



江卸・新忠別発電所完成

10月24日江卸・新忠別発電所の竣工式が北海道電力の主催により江卸発電所構内で行われました。

竣工式には北海道電力関係者、地元行政関係者、工事関係者50名ほどが出席し、神職の祝詞に続き玉ぐしをささげ、両発電所の完成を祝いました。

江卸発電所は忠別ダムの建設に伴い、忠別川の上流約2.5kmに移設・新築され、最大1万3,800キロワットの発電能力を持った発電所になりました。この発電所は景観と環境に配慮し、発電所本体は地下に建設され、町道忠別ダム天険旭岳線を行く方々の眺望を確保しています。

また、新忠別発電所は忠別ダム直下（東神楽町側）に新設され、最大1万キロワットの発電能力を持った発電所で、忠別川の4か所目の発電所となりました。



導水水圧鉄管